



ENGINEER® の MPDP ダイアリー



高崎 充弘

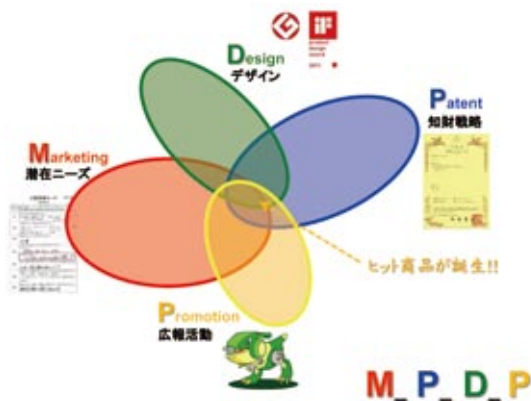
第46回 MPDP誕生の歴史秘話ヒストリア(1) ～アロマノカリスの「機・能・美」～

[Profile]

東京大学工学部卒業後、三井造船入社。米国レンスラー工科大学で修士課程修了後、(株)エンジニアの前身である双葉工具に入社。2004年に同社代表取締役社長に就任。独自の「MPDP理論」によるニッポンのモノづくり立国を提唱している。

おかげさまでシリーズ累計販売300万本を達成したネジザウルスは、現在まで6種類がシリーズ化されています。2009年に発売した4代目ネジザウルスGTの大ヒットの成功要因を分析してMPDP理論が誕生したのですが、決してある日突然生まれたものではありません。

初代ネジザウルスから2代目、3代目とマイナーチェンジを繰り返すなかで、何かが芽生え、約10年間かけて母体の中で育ち、2010年の正月にMPDPが産声を上げたのでした。



そこで今回からMPDP誕生の歴史秘話をお話したいと思います。ネジザウルスの前身は2000年に発売した「小ネジプライヤー」です。プロ向けの保守工具セットの中に入っていたものを単体で販売することになったのですが、先端の溝形状を「横」から「縦」に変えただけの、今から思うと稚拙なプライヤーでした。

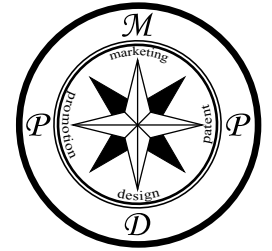
この年の売上数はわずかに700本で、いつ廃番になってもおかしくないほどの散々な実績でした。このころはもちろんMPDP理論もなく、「数撃ちゃ当たる」ではあ

りませんが、下手な鉄砲から年間数十個の新製品を出していましたので、特に落胆したり、失望したということはありませんでした。

しかし、とあるお客さまから「面白いんだけどね～」「値段が……」「パッケージが……」という声があり、テコ入れることにしました。まずは機能を強化するために縦溝に傾斜を設けた「コマネチ角度」を考案し、特許を出願。小ネジプライヤーというベタな名前を、社内公募で「ネジザウルス」という遊びゴコロのあるキャッチーなネーミングに変更し、商標出願も行いました。商品パッケージも地味な水玉模様から、恐竜のイラストをあしらったインパクトのあるデザインに変更。そして価格も思い切って見直した結果、2002年は一気に7万本の売り上げを達成することができました。大ブレイクといってもいいほどの実績に社内も大いに盛り上がりました。

その後3代目まで大きいネジ用、小さいネジ用とサイズの異なるネジザウルスをシリーズで展開しましたが、残念ながら顕著な売り上げアップには至りませんでした。ヒット商品も3年経てばユーザーに飽きられたり、競合品が出回ったりして、売れなくなるといわれますが、このままではネジザウルスもそうなる運命だったのかもしれない。

しかしこのころから初代ネジザウルスが「100倍も売れた理由」についてぼんやり考え始めていました。ヒットする工具にはどのような要素が必要なのか？ 何かの組み合わせなのだろうか？ まだまだ胎児のカタチにもなっていませんが、MPDP理論の受精卵が着床したのがこのタイミングだったのです。



全員：明けましておめでとうございます！ 本連載も今年で5年目を迎え、これもひとえに読者の皆さまのおかげと心より感謝しています。

ウ：MPDP理論ができたのは連載の2年前やから、今年で満7歳でんな。子どもでゆうたら伸び盛りや！

銀：MPDP2.0から3.0へ、まだまだ成長しませ〜。(*^^*)

ウ：ところで、ボクと違ってヒトの胎児は母体の中で、魚類→両生類→爬虫類→哺乳類と数億年の進化の歴史をたどって聞いたことありまっけど、MPDP生みの親である社長はんの胎内では、MPDPの胎児はどんな変化や進化をしてきたんでっか？

高：いきなりスケールの大きな話になってきたが、出発点は原始ネジザウルスの誕生に遡るんだ。5億年前のカンブリア紀にはさまざまな種類の生物が大繁殖していたのは知っているだろう？ 10年前の当社の製品開発も、「産めよ増やせよ」ではないが、数で勝負といったようなお恥ずかしい状況だった。

銀：「小ネジプライヤー」もいわばそんな無数の生物の一つやったんですな。

高：いずれ淘汰されていく可能性が高い絶滅危惧種だったが、お客さまの一言が刺激となって、遺伝子操作を行った。そして、突然変異種が誕生した。

ウ：それが原始ネジザウルでんな！ 「小ネジプライヤー」の100倍の大ヒット商品になりましたな。

銀：カンブリア紀の最大最強のヒーローといえばアロマノカリス！ まん丸い口に、360度に歯がついとって、ネジにかぶりつけそうやし、ネジザウルスのイメージにぴったりでっせ！

高：そのころから、突然変異で生まれた原始ネジザウルスの繁栄の原因をなんとなく考え始めたんだ。どの遺伝子が関与しているのか？ 今でいうゲノム解析だが、当時はまだまだ手探り状態だった。

銀：アロマノカリスに進化できた要素の一つは間違いな

くコマネチ角度でっしゃろ？

ウ：それからパッケージデザインを改良したちゅう美的要素も効いてまっせ。

高：もちろん「機能」と「美」、この2つの要素が真っ先に浮かんできたよ。しかしまだ要素があるのではないかと考えて、「機」と「能」を分けてみることにしたんだ。そうすると「機」「能」「美」の3つになる。

銀：「機」は「からくり」や「仕掛け」ちゅう意味もあるし、独自性や特許につながりますな。

ウ：「能」は「はたらき」や「効き目」という意味があるから実用性やニーズにつながりますわな。

銀：「美」はデザインそのものやけど、意匠デザインや商標にも関係しそうでんな。

高：「特許・実用新案・意匠・商標」のそれぞれが「機・能・美」に関係していてなかなか面白いだろう？

ウ：マーケティング・パテント・デザイン・プロモーションのMPDPの4つの要素やのうて「機」「能」「美」が工具のヒット商品を産む3つの要素と考えるとあった時期があったんでんな！？

高：2008年に工具の開発に関する講演を行う機会があったんだが、実際に図のようなイラストを使っていたよ。原始ネジザウルスのヒットの要因は、「機」「能」「美」で説明が付きそうだったが、他の新製品のモンキーレンチやハサミは、うまく説明できないものもあり、自分自身完全に納得できるものではなかった。



ウ：まさに社長はんの胎内で、MPDPの胎児が徐々に成長している段階やったんですな。

高：次回はアロマノカリスを襲う大事件、そして原始MPDPがついに大きな進化を遂げるお話をさせていただきます。ご期待ください。